

2024年度第6回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 衣笠特別

衣笠（きぬがさ）は、京都市北区の地名。また、京都市の市街地北西にある標高 201m の山。宇多天皇が真夏に雪景色が見たいと、衣笠山に絹をかけたという故事から、「きぬかけ山」とも呼ばれる。南麓を走る「きぬかけの路」沿いには金閣寺・龍安寺・仁和寺などがある。

○ 貴船ステークス

貴船（きぶね）は、京都市左京区の地名。深山幽谷や貴船川の清流が見られ、祈雨祈晴の神として古くから信仰を集めている貴船神社がある。貴船川の川床は座敷から素足を付けることが出来るほど水面が近く、京料理を楽しむことができる川床料理店が軒を連ねる。

○ KBS京都賞ファンタジーステークス（GⅢ）

本競走は、1996年に創設された2歳牝馬限定の重賞競走。1400mの馬齢重量戦で実施され、『阪神ジュベナイルフィリーズ』の関西地区における前哨戦として定着している。

ファンタジー（Fantasy）は、「幻想」を意味する英語。また、文学で夢想的な物語全般を指す。

KBS 京都は、京都市に本社を置く京都放送の呼称。ラジオは 1951 年、テレビは 1969 年の開局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ もちの木賞

もちの木は、モチノキ科の常緑小高木。宮城県、山形県以南琉球列島までと、朝鮮半島南部および中国舟山列島の暖帯に分布し、海岸や山野に多く見られる。

○ 醍醐ステークス

醍醐（だいご）は、京都市伏見区の醍醐寺を中心とする地域。874年に理源大師聖宝が霊泉を発見し、その「醍醐味」を味わい、寺号としたことが地名の由来となっている。また、豊臣秀吉が盛大な花見を行った場所としても有名。

○ みやこステークス（GⅢ）

本競走は、京都競馬場の 1800m で実施されていた『トパーズステークス』を 2010 年にオープン特別競走から格上げし、競走名を変更して創設された重賞競走。なお、第 1 着馬には同年の『チャンピオンズカップ』への優先出走権が与えられる。

みやこ（都）は、その国の中央政府の所在地。日本では長く京都がその地であったため、京都を指すことが多い。

<第 3 日>

○ 京都ジャンプステークス（J・GⅢ）

本競走は、1999 年に創設された障害重賞競走。芝 3170m の別定重量戦で行われる。高さ 80cm、幅約 16m のバンケット障害を使用し、遠近感に乏しい競走馬のみならず、騎手にとっても技量を問われる難度の高い競走となっている。

○ 修学院ステークス

修学院（しゅうがくいん）は、京都市左京区の地名。比叡山西麓の近郊農業地帯だったが、1931 年の京都市編入後に市街地化した。名は、比叡山の僧・勝算が平安時代に建立した修学院に由来する。

○ 室町ステークス

室町（むろまち）は、平安京の室町小路に由来する地名。京都市中央部の室町通は、北は北山通から南は久世橋通までを指す。三条通との交差点付近は交通の便がよく、西陣にも近いことから繊維問屋が集中している。今出川通の北側には、「花の御所」と呼ばれた室町幕府が置かれた。

○ デイリー杯 2 歳ステークス（GⅡ）

本競走は、1966 年に創設された重賞競走。創設時は 1600m だったが、翌年から 1400m（1974 年～1977 年は 1200m）に短縮され、1997 年から再び 1600m となった。

デイリースポーツは、神戸新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○ 黄菊賞

黄菊（きぎく）は、黄色い花をつけるキクの総称。キクは日本の国花であり、観賞用、切り花用など、その種類は非常に多い。花言葉は「高貴」「高潔」。

○ JRAウルトラプレミアム ラッキーライラックカップ

本競走は、JRA70周年「メモリアルヒーロー」ファン投票において、『エリザベス女王杯』の歴代優勝馬の中から選ばれたラッキーライラック号の名を冠した競走。

ラッキーライラック号は、2019年（第44回）・2020年（第45回）の『エリザベス女王杯』優勝馬。史上4頭目となる連覇を達成し、G I 4勝を挙げるなど、輝かしい実績を残した。

なお、本競走は、払戻額を大幅に増加させる「JRAウルトラプレミアム」の対象競走。

○ ジャパン・オータムインターナショナル エリザベス女王杯（G I）

本競走は、1970年に3歳牝馬三冠の最終戦として創設された『ビクトリアカップ』を前身とする重賞競走。1975年にエリザベス女王が来日したことを記念して、翌年に現在の競走名に改称された。当初は『ビクトリアカップ』を踏襲し、京都競馬場の2400m、負担重量は定量、3歳牝馬限定の混合競走で実施されていた。その後、古馬牝馬の競走体系改善に伴い、1996年に競走条件が3歳以上の牝馬に変更され、牝馬No.1決定戦としての意味合いを持つようになるとともに、距離も2200mへ短縮された。

また、2008年に創設された秋季国際G I競走シリーズ「ジャパン・オータムインターナショナル」にも指定されている。

○ ドンカスターカップ

ドンカスター（Doncaster）は、イギリスのイングランド中北部、サウス・ヨークシャー州の都市。ドーン川下流域に位置し、古くは織物や炭鉱の町として栄えていた。

本競走は、ドンカスター競馬場と京都競馬場が姉妹競馬場となったことを記念して、1989年に創設された競走。1595年から競馬が行われていたとされる同競馬場では、最古のクラシックレースであり、イギリスの三冠競走の一つである『セントレジャーステークス』が実施される。

<第5日>

○ 秋明菊賞

秋明菊（しゅうめいぎく）は、アネモネ属キンポウゲ科の植物の一種。名は、秋頃、菊に似た花を咲かせることに由来する。別名は貴船菊。京都の貴船地方に多く見られ、古くから観賞用として栽培されている。花言葉は「忍耐」「薄れゆく愛」。

○ 近江特別

近江（おうみ）は、東山道の一国のことで現在の滋賀県にあたる。当時の琵琶湖の呼称「淡海」がそのまま使われるようになった。国内最古のブランド牛と言われる近江牛が有名。

○ アンドロメダステークス（L）

アンドロメダ（Andromeda）は、ペガサス座の北東にある晩秋の代表的な星座。トレミーの48星座のひとつ。名は、ギリシア神話に登場するエチオピア王ケフェウスと王妃カシオペアの娘アンドロメダに由来する。

<第6日>

○ 比叡ステークス

比叡（ひえい）は、京都市と滋賀県大津市の境にある比叡山の略称。山頂は京都側の四明ヶ岳と県境の大比叡に分かれる。788年に最澄が入山して根本中堂を建立し、延暦寺の勅号を受けて以降、多くの高僧碩徳を輩出し、日本仏教の母山と仰がれている。現在では、一山寺院50余、末寺3,000寺を誇る天台宗の総本山として有名。

○ JRAウルトラプレミアム グランアレグリアカップ

本競走は、JRA70周年「メモリアルヒーロー」ファン投票において、『マイルチャンピオンシップ』の歴代優勝馬の中から選ばれたグランアレグリア号の名を冠した競走。

グランアレグリア号は、2020年（第37回）・2021年（第38回）の『マイルチャンピオンシップ』優勝馬。2020年は、『安田記念』『スプリンターズステークス』に続くG I 3連勝と同時に古馬マイルG I 春秋制覇を達成した。引退レースとなった翌2021年は、史上6頭目となる連覇を達成し、G I 6勝目を挙げるなど、輝かしい実績を残した。これらの功績から、2020年、2021年と2年連続でJRA賞最優秀短距離馬に選定された。

なお、本競走は、払戻額を大幅に増加させる「JRAウルトラプレミアム」の対象競走。

○ ジャパン・オータムインターナショナル マイルチャンピオンシップ(G I)

本競走は、1984年に創設された重賞競走。日本における競走体系は長らく長距離路線が重視されていたが、近代競馬においてスタミナとともにスピードも重視されるようになり、短距離路線についても整備が図られた。文字通りマイラーのチャンピオンを決める一戦として、『安田記念』と並び大きな目標となっている。

また、2008年に創設された秋季国際G I競走シリーズ「ジャパン・オータムインターナショナル」にも指定されている。

○ 壬生特別

壬生(みぶ)は、京都市中京区の地名。かつては朱雀大路と並行して、平安京を南北に貫く壬生大路が大内裏の美福門に通じていたが、低湿地であったため農業が発達し、農村に転じていった。また、幕末には新選組が屯所を置いたことでも知られる。壬生寺では毎年節分・春・秋に、国の重要無形民俗文化財である壬生大念佛狂言が一般公開される。

<第7日>

○ 栴尾特別

栴尾(とがのお)は、京都市右京区の地名。高尾・槇尾とあわせて三尾と呼ばれ、古くから紅葉の名所として有名。同地にある高山寺は世界遺産に指定されており、鳥獣人物戯画や日本最古の茶園があることで有名。

○ 顕彰馬選定記念 コントレイルメモリアル

本競走は、中央競馬の発展に多大な貢献があったとして、コントレイル号が本年顕彰馬に選定されたことを記念して実施される。

同馬は、父ディーピンパクト号以来となる『皐月賞』『東京優駿(日本ダービー)』『菊花賞』を無敗で勝利し、史上初となる親子での無敗クラシック三冠馬となった。生涯成績はG I 5勝を含む11戦8勝という輝かしい実績を残し、デビューから引退までの3年間すべてでJRA賞を受賞した。

○ ラジオNIKKEI杯京都2歳ステークス(G III)

本競走は、2014年にオープン特別から格上げされた重賞競走。1959年から続く伝統ある競走で、1989年まで1400~1600mで実施されていた。その後、1990年に1800mに、2002年には2000mに距離が延伸され、2歳馬の距離適性を測る競走となっている。

ラジオNIKKEIは、日経ラジオ社が運営する短波放送局の愛称。前身となる日本短波放送時から中央競馬実況中継をはじめとする様々な競馬番組を提供している。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○ 花園ステークス

花園（はなぞの）は、京都市右京区の地名。名は、清原夏野が別荘のあったこの地に多くの草花を植え、花園と呼ばれたことに由来する。

○ 清水ステークス

清水（きよみず）は、京都市東山区の清水寺を中心とした一帯。清水寺は、778年の開創といわれ、山号は音羽山、宗派は北法相宗。「清水の観音さま」「清水の舞台」「音羽の滝」が有名で、多くの参拝者が訪れる。1994年にはユネスコ世界文化遺産に登録された。また、この地域は清水焼の産地としても有名。

○ カノープスステークス

カノープス (Canopus) は、りゅうこつ座のアルファ星。おおいぬ座のシリウスに次いで、全天で2番目に明るく見える星である。南中高度（一番高く上がった時の地平線との角度）が低く、北日本では地平線より上に昇らないため確認することができないが、東日本より南の地域では、南の空の地平線近くで赤く見える。中国では「南極老人星」と呼ばれ、この星を見ると寿命が延びるといふ言い伝えがある。

○ 京阪杯 (GⅢ)

本競走は、1956年に創設された『京都特別』を前身とする重賞競走。当初は2200mのハンデキャップ戦として実施されていた。1961年に現在の競走名に改称され、その後、幾度かの変遷を経て、2006年から3歳以上、1200mの別定重量戦で実施されている。

京阪ホールディングスは、大阪市に本社を置く株式会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。